

佐志区公民館だより

第4号①

発行責任者：三角航洋

あけましておめでとうございます！

令和4年(2022年)を迎えて、区民の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。時季を逸しましたが、改めまして「新年あけましておめでとうございます」今年もよろしくお願い申し上げます。

年末年始にかけてはコロナ感染症予防により、ほとんどの行事計画等は中止または制限・規模縮小の運びとなっています。まさに「コロナに明けてコロナに暮れた」1年、2年と言う危機的な状況です。〔「世の中はコロナでチグワッタ・・・」ある高齢者の一言〕

このような状況下ではありましたが、12月25日には佐志区公民館玄関に2022年への願いを込めて「ジャンボ門松」(202.2cm)を公民会長の皆さんで設置していただきました。平穏無事でありたいものです。また年末年始にかけて再建した「阿字賀神社」では、参拝される皆さんを焚火で暖かくお迎えしました。多くの区民の皆さんで賑わっていました。元旦は「2022新春・初日の出を見るウォーキング大会 in 十文字ヶ丘」を実施、今年1年の幸福を参加者全員で祈りました。「きらめきの会」やスポンサー企業(福袋、お年玉の提供)のご協力により1大イベントとなり、ハプニングやお笑いで大盛況でした。参加された皆さん、極寒の中ご苦労様でした。

さて、佐志区においては町当局より「自治公民館指定管理者制度」(5年契約)の見直しが提示されております。今期限り(令和7年度末終了予定)の契約解除が打診されているところです。後日、説明会を実施する方向ですが、「無償譲渡で佐志区に引き渡す」か「無償譲渡を拒否する」かの選択を迫られるところです。公民館・交流館の維持管理や交付金等の関係、常駐職員の見直しなどの条件を勘案しなければならない所です。

最後にコロナ終息の糸口は見えない状況ですが今年1年、何事もなく平穏で普通の生活ができることを願ってやみません。年度末も近くなり、区・公民会も新しい執行体制が組織されると思いますが、引き続き区民の皆様のご理解ご協力をお願いします。



完成した門松と公民会長の皆さん



令和4年元旦 十文字ヶ丘に集った皆さん

祈る！コロナの終息



【編集後記】元旦の日の出前、6時30分に眠たい目をこすりこすり、公民館に集合。十文字ヶ丘入口まで車で行くと思っていたが、その場の雰囲気ですぐに徒歩に。車だったらわずかな上り坂(後日計測したら、たったの2キロ弱)を、頑張って歩きました。七時過ぎに到着。そのとき気づいたのが、体の温かさでした。歩くことの大切さを身にしみておぼえました。

我が村自慢 第6回 池之野編



2体の馬頭観音様と山の神様をお祀りした御宮

池之野集落は、新生丘の裏側に位置し、冬場は紫尾風が吹きぬけて、とても寒い所ですが、お米はさつま町でも1、2位を争う美味しいとの評判です。又、毎月集金を兼ねて集会所に集まり、健康確認を行い、深い絆で繋がれています。唯20代以下の子どもが一人も居ない所に突如4月頃からあの豪州から新婚さんが移住して未耕作地を利用して造園業をされるとの事で、ベビー(ハーフ)が生まれますと公民会の宝となり、今からとても楽しみにしている所です。

池之野公民会長：池之野 芳己		
人口比率等		
戸数	34戸	比率
小学生未満	0人	5%
小学生	0人	2%
中学生	0人	1%
高校生	0人	5%
一般	43人	52%
75歳以上	21人	35%
合計	64人	100%

我が村自慢 第7回 さくら編



さくら公民会は、平成11年に旧下寺下公民会と旧篠田公民会が合併し誕生した公民会です。公民館行事にも何とか参加しております。ところで、篠田の入口にある階段を上ると佐志地区の招魂碑があります。これは日清・日露戦争と第二次世界大戦に従軍し、戦死された方々の御霊を慰めるために建立されたものです。私たちが今日の平和を築けたのも戦没者の尊い犠牲のうえになり立っていることを忘れないように努めたいものです。皆さんも機会があったら是非訪れてください。

さくら公民会長：古町 忠義		
人口比率等		
戸数	50戸	比率
小学生未満	3人	5%
小学生	1人	2%
中学生	3人	1%
高校生	2人	5%
一般	59人	52%
75歳以上	22人	35%
合計	90人	100%

※この企画は、佐志区12公民会の持ち回りとしします。(12公民会/1年)

【佐志小学校 創立150周年 記念式典】

歴史に残る大行事の「佐志小学校創立150周年記念式典」が、前日までの天気心配も杞憂となり、秋晴れの令和3年11月7日（日曜日）に、佐志小学校学習発表会とコラボして盛大に開催されました。

式典は、上野さつま町長様、宮之脇尚美さつま町議長様、さつま町教育委員会 原園修二教育長の町三役をはじめ、佐志区公民会長など多くの来賓を迎えて始まり、新調された校旗を実行委員長の久保氏から児童代表の福島航平君へ手渡されました。

創立記念行事は、前例のないことからゼロからのスタートでした。まず、課題は資金面の確保でした。しかし、広報が広まるにつれて、全国各地から佐志区出身の鹿児島市保育園経営の〇〇さんの百万円を筆頭に多額の寄付金が集まりました。感謝感謝の一言です。誠にありがとうございました。

実行委員会は、これから記念誌の編集、返礼品の発送、残金の有効利用と多くの宿題が残っていますが、令和4年度初めを目標に活動していきます。

